

付・大菅豊家文書

大菅豊家は菅庄三郎家の分家である。この文書は本家庄三郎家から譲られた屏風の下張り文書である。庄三郎家は近世には拝領山のうち吉助山（高岡の二上屋吉助持山↓木町大橋十右衛門）を預かっており、幕末の文久・慶応の文書によると二上村の二人の肝煎のうちの一人であった。大菅豊家文書は二上射水神社文書の補足である。

4・御初穂米年々減少につき触渡方願状（天明四年）

5・石動山并二上山知識米猥りにならぬ様申渡し請書（天明四年）

天明の飢饉によって知識米も減少したことがわかる。

10・田畑惣歩数等書上控（文化九年）

この前年の文化八年に田地割が行われたことがわかる。村方文書にはこの関係の文書はない。

26・養老寺拝領山境筋、寺方と申分につき詮義方願書（安政五年）

「万延元年二上村養老寺拝領山境分間絵図」（二上射水神社文書No.

14・15）が作られた理由は安政四年の田地割の際の申分であった。

32・硝石方床下土、五十里村迄持届人足賃書上（慶応元年）

幕末海防政策時の塩硝増産はこの村にも及んでいた。

42・養老寺拝領山の内請山九ヶ所内訳（明治初年）

請山は御前山林・御本社林・院内宮林・恵王子林・慈尊院本覚坊金光院三ヶ寺林・豊後山・吉助山の九ヶ所であった。この内訳は1・（享保十一年）・3・（安永三年）にもあるので、近世を通じてのものであったことがわかる。

44・伊勢御師松垣二見太夫神納状

年不詳であるが、73の由緒によると、「慶長元年三月三日開基」とある。今の下二上の神明社はこの年、伊勢御師の活動によるものであった。

65・稼山上木之儀に付訴状（明治七年）

拝領山が明治になって官に没収され、改めて払下げになった過程が具体的にわかる。

76・77・78 氷雪貯蔵所（明治十九年）雪山を作って高岡に売り出していた。

参考文献

『富山県公文書文書目録歴史文書十八（二上射水神社文書）』富山県公文書館 平成14年9月

菊池 武 「二上山修験知識米勸進追考―旧本覚坊文書を中心に―」

『越中二上山と国泰寺』桂書房 平成6年5月

新田 二郎 「本覚坊旧蔵「知識御論旨並御先代様御印物等記録について」（同右書） 平成6年5月

佐伯 安一 「「養老清水」と「岡の湯」ほか―二上射水神社文書整理作業から―」『二上山研究』第6号 二上山総合調査研究会 平成21年2月

佐伯 安一 「近世養老寺奉仕の築山行事の実態」『二上山の自然と文化』二上山総合調査研究会 平成23年2月

佐伯 安一 「二上山南麓二上地区の開発と用水」（同右書）平成23年2月

佐伯 安一 「二上山南麓二上地区の開発と用水」（同右書）平成23年2月